



認知症がもたらす記憶障害を「自分ごと」として体験するVRシステム

関西学院大学 工学部 知能・機械工学課程 井村研究室
三田市社会福祉協議会との共同研究



インスタントコーヒーを淹れるVRを体験するぞ

体験者はHMDを装着



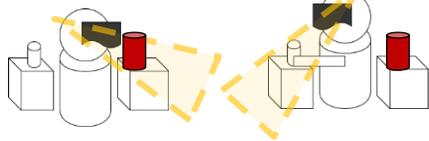
机の上に置いたはずのコップの位置が変わっている...
自分で動かしたのかな...記憶と違う...

実は、認知症の記憶障害を、健常者が体験するVRシステムなのです

アルツハイマー型認知症では、自身の行動の記憶がまるごと欠落するという記憶障害が生じます。本研究で構築するVRシステムは、体験者が提示された一連のタスクを実行する間に、体験者が視認していない物体の位置を変えるなど、周囲のVR環境を恣意的に操作します。周囲の環境に自身の記憶にない変化が起こっているという点で、アルツハイマー型認知症の患者の体験と同等の状況を作り出すことで、記憶障害を持つ患者の感情を追体験可能にします。

健常者のVR体験

視野外の物体の位置をシステムが変更



記憶している環境



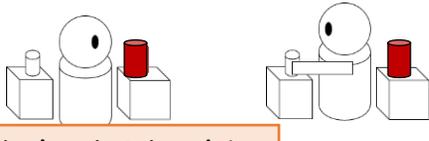
記憶にない行動



思っている位置に無い (システムが動かした)

記憶と異なる環境

原因は異なるが結果として同じ状況



認知症によるもの忘れ

体験全体を忘れる



思っている位置に無い (実は自分が動かした)

VRは他者のあたりまえを自分ごととして体験可能にする

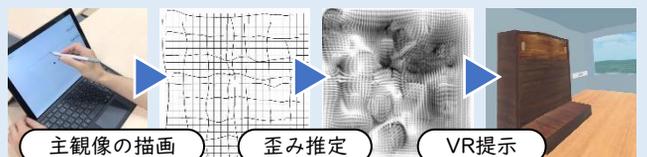
以下は当研究室での他の研究事例

■認知症による場所の見当識障害



三田市社会福祉協議会との共同研究
→朝日新聞厚生文化事業団「認知症フレンドリーキッズ授業」に提供

■ものが歪んで見える変視症の定量化と症状体験



兵庫医科大学眼科学教室との共同研究